

京都 クオリアフォーラム 会報

複数の企業・大学による
共創・人材育成

京都クオリアフォーラムは、
京都に根ざす大学と企業が互いの垣根を越えた交流を通して
「知の共鳴場」を実現すること、そこから新たなイノベーションを創出し、
社会実装を通して日本の科学技術、産業界に貢献し、世界をリードする
人材を輩出することを目的として設立されました。

Vol. 4
2025年冬号



京都クオリアフォーラム

KQFの「Q」は京都クオリアフォーラムが目指す「知の共鳴場」というコンセプトから、水面に立った波紋が干渉する様子を表し、京紫と鴨川の流れの水色を取り入れました。

INDEX

理事あいさつ

株式会社村田製作所 代表取締役副社長 岩坪 浩
京都大学 総長 渕 長博

活動トピックス

テーマ探索グループ活動報告
人材育成グループ活動報告

会合・イベント

2025年度定時総会
IVS 2025 KYOTO

理事あいさつ



企業理事代表 岩坪 浩

株式会社村田製作所 代表取締役副社長

京都クオリアフォーラム（KQF）は来春5月で発足丸5年となります。それに先立ち、アカデミア理事として京都大学と奈良女子大学を2024年12月に正式メンバーとして加入いただいたのは心強い限りです。さらに知名度という点でも他の地域の方々から活動内容の問合せをいただいたり、京都府が強く推進するIVS（スタートアップ関連イベント）の定着にもサイドイベントとしてKQFが協力したりして活動の幅も、発信力も少しづつですが進化しています。

この節目を迎えるにあたり、発起人であり会長でもある堀場厚会長の言葉を今一度振り返ると「産業界とアカデミアの関係が伝統的に良好な京都において、大学と企業の「知」を調和的に共有する場を、社会課題の解決と新産業の創造をしたい」という目的が一歩ずつ実現されているなと感じています。一方多くの大学、企業でまずは京都の地域社会課題を解決しようというスローガンを掲げ、テーマ探索WGや人材育成WGとして具体的な活動を推進するなかで、課題が出てきているのも事実です。特に新産業の創造となると、小さな一歩からとしているものの、それさえも時間がかかり専任者がいない辛さを痛感します。

そのような状況のなかでも粘り強く健康、医療、エネルギー、農業という分野で参加メンバーの「知」で何とか前進させようという努力をひしひしと感じます。小さな成功、他への水平展開 こういう状況を夢見てこれから多くの伝統産業を生み出した京都の強みを発揮するべく力を合わせて行きたいと思っています。

人材育成については博士メッセはじめ大学と企業の対話により、双方のギャップが埋まりつつあるなと感じ、運営幹事のメンバーには心より感謝します。

会員の皆様からの叱咤激励、アドバイスなど何でも忌憚なく意見交換できるKQFを応援ください。

理事あいさつ



アカデミア理事代表 **湊 長博**

京都大学 総長

京都大学は2025年11月、京都クオリアフォーラムのアカデミア会員として新規参画させていただく運びとなりました。

京都クオリアフォーラムは、2021年の発足以来、京都の地場産業が誇る伝統や産業と、アカデミアが発信する研究や技術開発の融合により、その「知」を結集して具体的な成果を広く発信していくプラットフォームとなっています。現代社会に山積する複雑で困難な社会課題の解決に資するため、本学も新しいエネルギー・材料の開発、環境・食料問題への挑戦など大学発スタートアップ・ベンチャーの育成に注力し、その数はすでに400社を超えてきています。京都クオリアフォーラムをトリガーとして、まさに産業界と学術界が一体となり新たな価値を創出するとともに、次世代を担う人材育成に尽力してまいる所存です。

活動トピックス

テーマ探索グループ活動報告

テーマ探索グループ 主査 西方 健太郎 ((株)堀場製作所 コーポレートオフィサー)

テーマ探索グループでは、KQFの会員が協力して解決策を研究できる課題を見つけるとしています。恒例イベントとなった「お互いを知ろうの会」で京都が抱える課題や会員がもつ技術シーズについて知見を共有し、「健康・医療・介護」「スマート農業」「エネルギー・モビリティ」の3つの部会でさらに具体的なテーマ探索活動を推進しています。

2025年度も、行政やスタートアップ事業者など会員以外の方とも交流を促進し、具体的なテーマで連携していくことも視野に入れて活動の幅を広げていきます。

お互いを知ろうの会

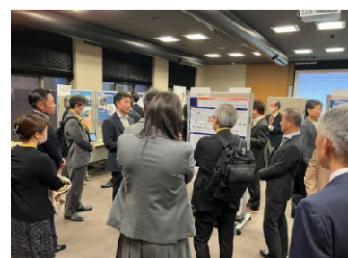
2024年11月12日に村田機械本社において「第6回」、2025年4月9日に京都府立医科大学図書館ホール・ラーニングコモンズにおいて「第7回」、2025年11月11日に同志社大学良心館・寒梅館において「第8回」を開催しました。いずれの会もすべての会員大学・企業から80名～100名が集い、会員大学・企業から、現在進めている研究内容や解決に向けたアイデアを講演やポスタープレゼンとして紹介されました。各回、実機持ち込みなどもあり、非常に良い交流とお互いを知る機会を生み出すことができています。



第6回 村田機械本社



第7回 京都府立医科大学



第8回 同志社大学

各部会の活動報告

テーマ探索グループでは、「健康・医療・介護」「スマート農業」「エネルギー・モビリティ」の3つの部会を立ち上げ、活動を行っています。

1. 健康・医療・介護部会

「歩行」と「睡眠」の分野に焦点をあてて活動しています。

「歩行」に関するテーマ探索においては、測定シーザーを絞り込み、歩行障害の早期発見・早期治療・予後改善に向けたデータ収集と各測定データを統合・連携して分析アルゴリズムの開発を目指しています。2025年度早期に府立医大に歩行測定の拠点を整備して「測ってみようの会」の拠点とする計画。「睡眠」に関するテーマ探索においては、報交換会や「測ってみようの会」を開催してテーマに対する理解を深めつつ、在宅医療などの医療現場のニーズからアプローチする新たな課題も模索しています。



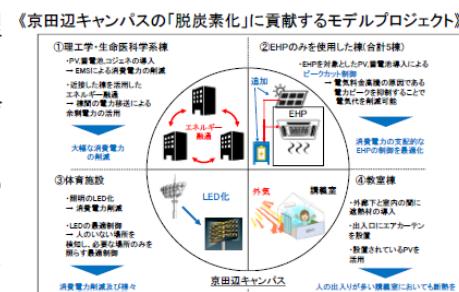
2. スマート農業部会

農業の課題に対して、機械化に加えてソフト面も含めた効率化、ブランディング、全体バリューチェーンの改革を検討しています。京都ブランドの付加価値を生かし、出口戦略も固め、好循環のモデルケースを「京白丹波」で挑戦することにし、施設見学会・技術検討会を継続し、先進農業の見学、特徴ある品種によるビジネスモデル考案企画実行中。



3. エネルギー・モビリティ部会

カーボンニュートラルを起点に参画会員間で理想の街の在り方を議論してそれを実現するためのロードマップを作成し、適切な「場」を設定して社会実装に向けた共同プロジェクトを立上げることを計画しています。同志社大学の京田辺キャンパスの「脱炭素化」の課題提起に対して産学協働を模索中。キャンパスへの再エネ/EMS導入を議論したり、キャンパスを検証の場とするようなモビリティのテーマを探索しています。



人材育成グループ活動報告

人材育成グループ主査 増田 新（京都工芸繊維大学 理事・副学長）

本グループは、アカデミアと産業界の枠を超えた対話を通じて、大学と企業が育成すべき人材像を共有し、未来を切り開く人材を育むための交流の場を提供しています。産業界とアカデミアが良好な関係を築いてきた京都の伝統を生かし、現在、「博士課程学生キャリア支援」、「人材育成本音トーク」、「リカレント教育」を三本柱としており、さらに今年は学生と社会人がより深く相互理解するための新規事業の企画も進めています。いずれもKQFメンバー間の本音の意見交換をベースに事業を進めており、個別の交流の場から、産学協働による人材育成プラットフォームへの進化の様相を見せ始めています。

博士キャリアメッセ KYOTO/NARA

高度専門人材である博士後期課程の学生がイキイキと活躍できる社会を京都・奈良から作り上げることを目指してスタートしたKQF博士キャリアメッセも今年で5年目を迎えました。今回から名称にNARAを加え、第1部を京都府立医科大学、第2部を奈良女子大学で開催しました。7月15日の第1部では、企業、アカデミア、公設試で活躍する博士による自身の経験・キャリアの紹介を講演形式で行った後、それぞれの博士を囲む交流セッションを行いました。約150名のご参加をいただき、高い満足度と好評を博しました。11月7日に開催した第2部では、現役の博士課程学生を主役として、1分間ピッチ、ポスター発表、ネットワーキングセッションを実施し、いわゆるトランスファラブルスキル、特に「掴む力」「伝える力」「仲間を増やす力」の力試しをしていただきました。過去最大となる約200名（修士学生や学部学生の参加も）の参加をいただき、「新たな視点の獲得にも繋がり大変有意義だった」「多様な大学・分野の人とざっくばらんに話ができるよかったです」「悩みや近況を分かち合えたことが糧になった」「修士学生にとっても博士の方々の日々のリアルや考え方を知れる機会は貴重」など、参加した学生と社会人双方から高い評価を得ました。



本音で語る会

人材育成に関わる担当者が、企業から11名、大学から17名集って、自由闊達な討論を行いました。

この会はこれまでにも「就活」「産業界で活躍する人材」「自律型人材の育成」などについて、肩書きや立場を超えて本音で語り合う活動をしてきましたが、今回は、インターンシップのあり方にも絡めて、在学時の学生にどのような（学問・研究以外の）社会経験を積んでほしいか、を中心に「学生や若い社会人に期待する社会経験」をテーマに議論しました。議論はグラフィックレコーディングとしてまとめ、振り返りやすくする工夫をしています。



会合・イベント

2025年度定時総会

6月2日（月）16時、ザ・サウザンド京都にて「京都クオリアフォーラム 2025年度定時総会」が開催されました。産学の垣根を越えて未来の価値をともに創る本フォーラムは今年で設立5年目を迎え、節目の年にふさわしく17会員中15名の代表者ご本人が出席という熱意に満ちた集いとなりました。

総会はまず堀場厚会長の挨拶で始まりました。続いて、SCREENホールディングス垣内前会長の後任・廣江会長が「イノベーションと人材育成、どちらも企業にとって欠かせないテーマです。私も積極的に貢献していきたいと思います。」とフォーラムに参加する抱負を語られました。



続いて、岩坪幹事長の議事進行のもと、2024年度の事業報告、2025年度の事業計画案の報告がなされました。テーマ探索事業では、各部会において、実証研究・共同研究が動きだしつつあります。また、人材育成事業では、新たな博士課程学生支援策として合宿形式の人材育成プログラム「ドクタートレーニングキャンプ」の構想が発表されました。

その後、京都クオリアフォーラムの総会らしく、代表者からさまざまな意見が交わされました。「健康医療介護部会の研究目的は疾患だけでなくウェルビーイング全般に広げるべき」「スタートアップとの交流を、企業とのマッチング機会にも拡大してはどうか」「インターンシップ制度は既存の仕組みと連携して現実的に構築を」「博士課程学生向けの海外研修や長期インターン支援への奨学金提供も検討に」

代表者による議論の中で繰り返し浮かび上がったのは、「フォーラム内外での認知度向上」「活動への積極的参加」「信頼に基づいた連携」の3つのキーワードで、これらを今後のフォーラムの活動の基本方針とすることが確認されました。

堀場会長も「今日の議論を次のステップにつなげるために、私たちの活動をどう世の中に“浸透”させていくかも大切です。今の時代にあったやり方があると思うので考えていきたい。」と今後のフォーラムの活動への決意を表明しました。

京都クオリアフォーラムは、これからも「信頼に基づく実践の場」として、産学の垣根を越えた共創に挑み続けます。

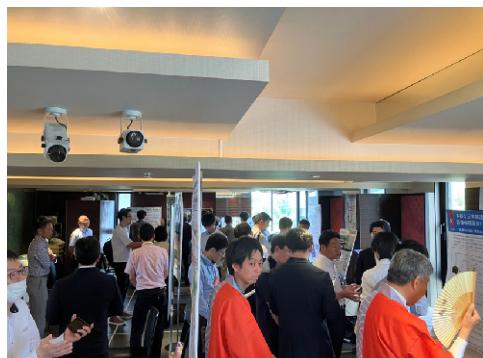
IVS 2025 KYOTO

7月2日から4日まで、日本最大級のスタートアップイベント「IVS 2025 KYOTO」が左京区の京都市勧業館みやこめっせとロームシアターを会場に開催されました。国内外から13,000人もの起業家や投資家が京都に集い、交流を深めることで新しいイノベーション創出のきっかけとするイベントです。メインイベントの他にも500を超えるサイドイベントが開催され、起業家たちが新たに出会い交わる大変活気がある3日間でした。京都クオリアフォーラムも、京都を訪れたIVS参加者との交流を深めるイベントを行い、IVSの成功に協力しました。

まず、7月4日午前に、みやこめっせ会場内の「京都エリア」特設ステージにて、「京都流オープンイノベーション 京都クオリアフォーラム」と題するステージイベントを行いました。京都クオリアフォーラムの増田新・人材育成G主査と西方健太郎・テーマ探索G主査が対談し、アカデミアと企業が協力してイノベーションを起こしてきた京都のよき伝統と、それに加えてスタートアップ企業の経営者やこれから起業を目指す方たちとの協力を通じて社会課題の解決につなげていきたい旨を表明しました。

また、同日の午後には、「KEINA Bridge ~スタートアップに関心のあるあなたと、京奈の大学・企業を結ぶ技術交流会~」と題するサイドイベントを左京区の岡崎庵で開催しました。京都クオリアフォーラムの会員大学・企業がそれぞれ持ち味とする取り組みや技術を紹介し、起業家との交流を深め新たなコラボレーションのきっかけとする主旨です。本サイドイベントには、鈴木 一弥京都府副知事、山下 晃正京都府参与をはじめ100名を超えるご来場者がいらっしゃり、多くの方が集い交流を深めるイベントとすることことができました。

京都クオリアフォーラムは、大学・企業・行政、そして新たな起業家たちとの共創活動を通して、新たなイノベーションを京都・奈良から創出し社会課題の解決をめざします。



京都クオリアフォーラム理事会

堀場 厚（京都クオリアフォーラム会長）

アカデミア： 小原 克博（同志社大学学長）、在間 敬子（京都産業大学学長）、塩崎 一裕（奈良先端科学技術大学院大学学長）、高田 将志（奈良女子大学学長）、塚本 康浩（京都府立大学学長）、仲谷 善雄（立命館大学総長）、湊 長博（京都大学総長）、夜久 均（京都府立医科大学学長）、吉本 昌広（京都工芸繊維大学学長）

経済界：足立 正之（株）堀場製作所代表取締役社長）、岩坪 浩（株）村田製作所代表取締役副社長）、上田 輝久（株）島津製作所代表取締役会長）、鈴木 順也（NISSHA（株）代表取締役社長 兼 最高経営責任者）、樋口 章憲（三洋化成工業（株）代表取締役社長）、廣江 敏朗（株）SCREEN ホールディングス 代表取締役 取締役会長）、村田 大介（村田機械（株）代表取締役社長）、山口 悟郎（京セラ（株）代表取締役会長）



〒 600-8813
京都市下京区中堂寺南町134
京都リサーチパーク
ASTEM 棟 305 号室
<https://kyoto-qualia-forum.jp/>

京都クオリアフォーラム | 複数の企業・大学による共創・人材育成

京都の優れたアカデミアと特色ある産業界が協力して『知の共鳴場』を作る。京都発の先進的なイノベーションの創出と人材育成を図り、日本が世界をリードする存在として飛躍する先駆けとなることを目指す。